

1971. 9. 13 宇宙電波懇談会事務局

(東京天文台 宇宙電波部内)

宇電懇定例総会 報告特集

【ニュース発行が大変遅れましたが、事務局もようやく「夏休み」状態から脱して機能をとりもどしたところですよ。遅延をおわびします。

定例総会は、1971年5月21日、日本天文学会大会の休み時間を利用して開かれ、45名の参加を得ました。

(1) 活動報告

◎ 「宇宙電波望遠鏡小委員会」(将来計画推進委員会)

天文研連の小委員会としての初会合が、4月16日、東京で開かれた。

・出席委員： 小川、海部、川尻、鶴目、高窪(以上宇電懇選出)、赤羽、田中、森本(以上電波研選出)、古石、末元、宮本(以上天文研選出)、古畑(学術会議会員・東京天文台)、(オブザーバー多数)

・委員長： 委員の互選の結果、田中春夫

・幹事： (委員長指名) 赤羽賢司

・「豊川シンポ」報告 …………… 干渉計の具体案 → 入1cm, 1" mapping.

設置場所の調査初臨 → 野辺山がよい。

・今後の方向として、
 「今年冬までにははっきり場所をきめ、各方面へ事前運動をして、来年予算要求を出そう」(古畑氏)、「天文台と、共同利用・運営等についてコンタクトし、意思の通をはかろう」等の意見がのべられた。(詳しくは、議事録参照のこと)

◎ 「豊川シンポジウム」の報告

事務局ニュースの「速報」(4月5日付)参照下さい。

集録は近く刊行。

◎ 「観測天文学シンポジウム」について

宇電懇・SAM 共催の大型シンポ「観測天文学シンポ」についての、「天体核研究会（基研，2月）に際しての討論の報告」。

（詳しくは、既報 事務局ニュース No-10（'71, 3月2日）および No-13（近く発行予定）を御参照下さい。）

(2) 財政報告

- ・会の活動の活発化（この1年間に、シンポジウム2回、ニュースを11号出し、会員数は110名をこえた）に伴ない、従来の“カンパ方式”に早くも限界がみえ、「オ1回 将来計画シンポ」集録の売り上げも底をついて、財源に困難を来している旨報告があった。
- ・運営委員会から、当面は 鹿島シンポ・豊川シンポの集録へのカンパでまかなうにしても、会費制による財政確立を考えるべき段階であるとの提案があり、了承された。

(3) 今年度の活動

大きな計画として、

- ・「観測天文学シンポジウム」：1971年末の開催
- ・45m 建設計画の推進
が確認された。シンポジウム集録を早く出すよう、事務局へ要請があった。
- ・その他、科研費 総研A の“宇宙電波”は、今年度はだめらしいと報告された。

新入会員

佐藤 義則

中部日本放送 テレビ局 送出部

会員の移動

（カッコ内は
前所属）

有沢 正和(京大)

大谷 浩(北大)

蓬花 聖運(京大)

武蔵野電気通信研究所基礎研究部オ2研(実室、
京大・宇宙物理教室、

立教大・物理教室、